割印

支援様式１

４新西早中第９０６７号
令和５年２月２２日

新宿区教育委員会

学校名　新宿区立西早稲田中学校

校長名　　塚本　　桂子　印

令和５年度　まなびの教室の教育課程について（届）

このことについて、新宿区立学校の管理運営に関する規則に基づき、まなびの教室による指導を下記のとおりお届けします。

記

１　まなびの教室の教育目標

・ 個に応じた学びを探り、学び続ける姿勢を養う。自己理解につとめ、互いの良さを認め合う心を育てる。心も体も健康で、活動の場を広げる。
・ 将来の自立した社会生活に必要な知識、技能、態度を習得させ、人との関わりの中で生きる力を育てる。

２　教育目標を達成するための基本方針

・ 新宿区版ＧＩＧＡスクール構想実現に向け、個別最適な学びへの授業改善を行う。生徒一人ひとりが主体的・対話的で深い学びとなるために個々の実態に即して指導形態及び指導内容を工夫する。生徒の課題解決に合わせて個別指導及び小集団指導を実施する。また、教員間での教材の蓄積、共有のためにＩＣＴ機器を積極的に活用する。
・ 在籍学級との綿密な情報交換を連携型個別指導計画に反映させ、指導方針とする。また、アセスメントツールを活用し、個々の生徒の教育的ニーズを把握するとともに、学級担任の作成する学校生活支援シート（個別の教育支援計画）の作成に向けて情報提供を行う。スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと連携し、家庭や地域で生きる環境を整える。
・ 校内委員会を通じて情報の発信、共有を行い、特別支援教育コーディネーターを中心に全ての教職員が障害に関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、障害のある生徒に対し組織的に対応する。
・ 様々な障害特性を理解し、生徒の自立に向けた指導のための教材研究、教材準備を行う。

３　指導の重点

・ 自立活動（各教科の内容を取り扱いながら行う指導も含む）においては、特に人間関係の形成、コミュニケーションの指導に重点を置く。

４　その他の配慮事項

・ 連絡帳や面談を通じて、家庭との連携を常に取れるようにする。また、必要に応じて在籍

学級と連携をした進路相談を行う。

- 臨床発達心理士を活用し、実態把握や指導に関する助言を得る。
- 原則の指導期間の考え方を踏まえ、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や連携型個別指導計画を在籍学級担任とともに作成し活用する。また、各学期末に指導目標ごとの達成状況について評価を実施する。
- 読むことや書くことに関する特別な教育的ニーズのある生徒に対して、必要に応じてＳＴＲＡＷ－ＲやＵＲＡＷＳＳⅡによるアセスメントを実施する。困難の状態を踏まえた指導、支援に活用するとともに、合理的配慮の検討資料とし、個別の状況に応じて定期考査の時間延長、問題文へのルビ振りなどを行う。